

平成26年度第5回青梅市協働事業市民推進委員会次第

平成27年3月26日

本庁舎5階 502会議室

午前10時～正午

出席委員7人・欠席委員2人

1 あいさつ

委員長

2 報告事項

(1) 平成27年4月1日付の人事異動内示について

事務局より報告

(2) 平成27年度市民提案協働事業の募集開始について

事務局より説明

委員：長期間の事業は申請できないのか。

事務局：単年度で申請をしてもらう。

委員：毎回、同じ事業でもいいのか。

事務局：申請は可能だが、審査がある。

委員：募集の仕方、多くの団体に申請してもらえるような方法を考えてほしい。

委員：ボランティア団体から各団体に周知しているのか。

事務局：チラシを配布している。3月14日に開催したボランティア・市民活動団体全体会議で周知をした。

(3) 市民活動推進課事業の予定について

事務局より説明

(4) 協働に関する意見について

事務局より説明

委員：市民活動団体の高齢化が問題になっている。

委員：まちづくりをするには、次の世代の人を中心に進めていき、60歳以上がバックアップしたほうがいい。

委員：ボランティア団体の拡充をしたほうがいい。

委員：協働事業は行政と事前打ち合わせをもっとしたい。行政は広報、会場確保になっている。また、各課と一緒にプレゼンをしたほうがいいのでは。そのようにすれば市で解決しようと

する目的にむかって一緒に行えるのでは。

事務局：各課で協働事業推進員を配置しているので、各課とも一定レベルまでもっていかないとは思っている。

委員：全ての課でなくても、一部の課でも変えていけたらいい。なかには課題を解決したい課があるのでは。

委員：平成27年度行政テーマはいくつあるのか。

事務局：3つである。

事務局：協働を認識している部署は行政テーマを提案している。

委員：団体の高齢化はあるが、石巻でボランティアをしていたとき、新宿の若者がきていた、それをみて若者にやる気がないわけではないと感じた。ただ青梅はボランティア・市民活動センターの場所がどこにあるのかわからない状態である。

委員：ボランティアも横につながりがあれば、ひろがるのではないか。

委員：協働はお互いのあゆみよりの場所が必要。市民と行政がつながりながら協働をつくりあげていけたらいい。

委員：補助金を使用し、課題を解決することは魅力がある。ただ、募集期間が短いのでは。

事務局：以前は2週間であったが、1ヶ月に延ばした。

委員：協働事業市民推進委員会での意見は取り入れられるところをとりいけたらいい。次期委員会に引き継いでいきたい。